

- 「学力向上推進事業」について
- 「山梨県いじめの防止等のための基本的な方針」について
- 県立高等学校の前期募集が変わります
- 青少年教育施設の利用について
- 「インターハイ」いよいよ来月開幕！
- 「科学の甲子園全国大会」に出場して
- 博学連携の推進－学校教育に博物館をご利用ください－
- 教職員の資質向上に資する研修会を目指して
- 学校紹介／笛吹市立春日居小学校
- 県立美術館「生誕200年 ミレー展－愛しきものたちへのまなざし－」
- 県立文学館企画展「村岡花子展 ことばの虹を架ける～山梨からアンの世界へ～」
- 県立文学館特設展「本のおしゃれ」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／中村キース・ヘリング美術館
- 山梨の文化財／国指定史跡 大丸山古墳
- 平成27年度山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について
- 考古博物館「わたしたちの研究室」作品を募集します
- 新教育委員長・新教育委員就任挨拶

Click!

※指定ページにジャンプします



山梨県教育委員会

作品タイトル「心に残る情景」

南アルプス市立白根巨摩中学校

第3学年 有野 栄晟

指導者：数野 桂子 教諭

学力向上推進事業 ～確かな学力の一層の定着と向上を目指して～

義務教育課

1 趣旨

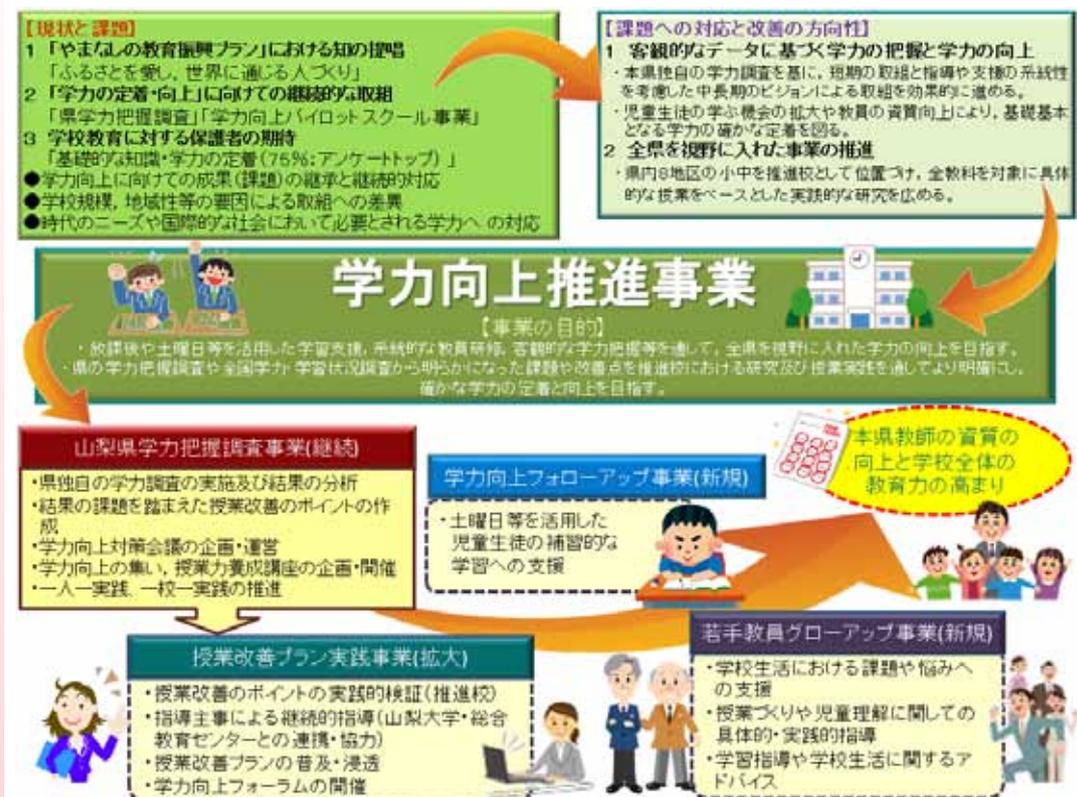
新たに策定された「新やまなしの教育振興プラン」では、未来を拓く「やまなし」人づくりを基本理念とし、夢と希望に向かって自ら学び、考え、行動する「たくましい力」を育て、他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育むことを基本目標にしています。

県教育委員会としまして、これまで「学力向上対策事業」を展開する中で、全国学力・学習状況調査等の結果から明らかになった課題を解決するために、学力向上に向けた全県的な取組を行ってきました。更に本年度から、子供たち一人一人の確かな学力の一層の定着と向上を目指して、新たに本事業を立ち上げ実施することとしました。

具体的には、放課後や土曜日等を活用した学習支援、体系的な教員研修、客観的な学力把握等を通して、全県を視野に入れた学力の向上を目指します。また、県の学力把握調査や全国学力・学習状況調査から明らかになった課題や改善点を推進校における研究及び授業実践を通してより明確にし、確かな学力の定着と向上を目指しています。

2 事業内容

- (1) 学力向上フォローアップ事業
 - 放課後や土曜日等を活用した児童生徒への補習的学習の実施
- (2) 若手教員グロースアップ事業
 - 経験3年以内の教員の資質向上を図るため、退職教員（アドバンスティーチャー）を派遣
- (3) 山梨県学力把握調査事業
 - 県独自の学力把握調査を通じた授業及び指導改善
 - 学力向上対策会議、学力向上の集い及び授業力養成講座の開催
 - 授業改善に向けての「一人一実践」、「一校一実践」の推進
- (4) 授業改善プラン実践事業
 - 学力向上に向けての実践研究
 - 学力向上フォーラムの開催



学力向上フォローアップ事業

～未来を拓く「やまなし」人づくりに向けて～

1 趣旨

本県においては、全国学力・学習状況調査結果の分析によると児童生徒の生活習慣に大変良い状況が見られます。一方で、同調査の得点分布を見ると中学校国語科以外は、全国平均よりもやや下位の部分に集中し、授業時間以外での学習時間が少ないという課題が見られます。

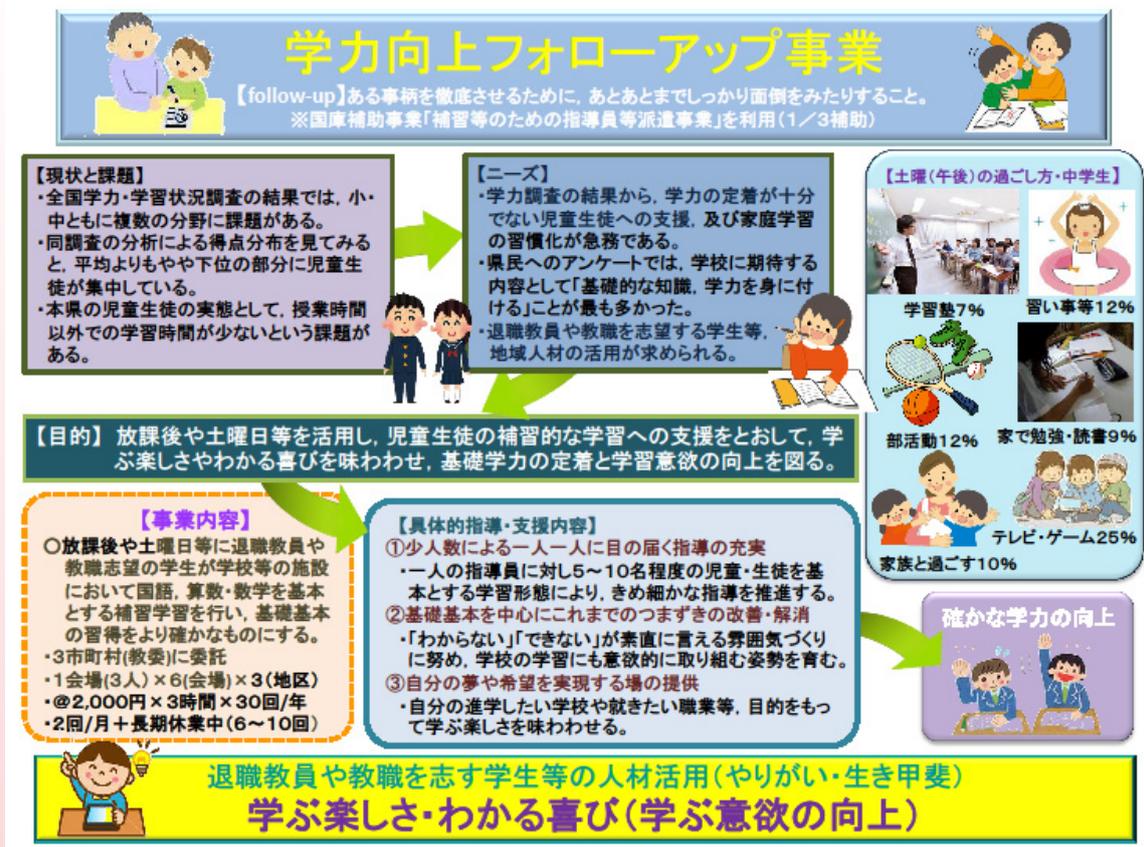
これらの課題を踏まえた上で、本事業では、放課後や土曜日等を活用し、児童生徒への補習的な学習支援をとおして、学ぶ楽しさやわかるよさ喜びを味わわせ、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るものとしています。

2 事業内容

児童生徒の学習支援を行うため補習的な指導を行い、教科における基礎学力を身に付けさせる取組を行います。その際、児童生徒が「わからない」「できない」が素直に言える雰囲気づくりに努め、学校の学習にも意欲的に取り組む姿勢を育むとともに、目的をもって学ぶ楽しさを味わわせるようにします。

3 事業の具体的な実施方法

児童生徒の学習支援を行うため補習的な指導を行い、教科における基礎学力を身に付けさせる取組を行うために、市町村（組合）教育委員会に事業を委託します。委託を受けた市町村（組合）教育委員会は、会場や指導員等の事業の実施に必要な準備を行います。



若手教員グロースアップ事業

1 趣旨

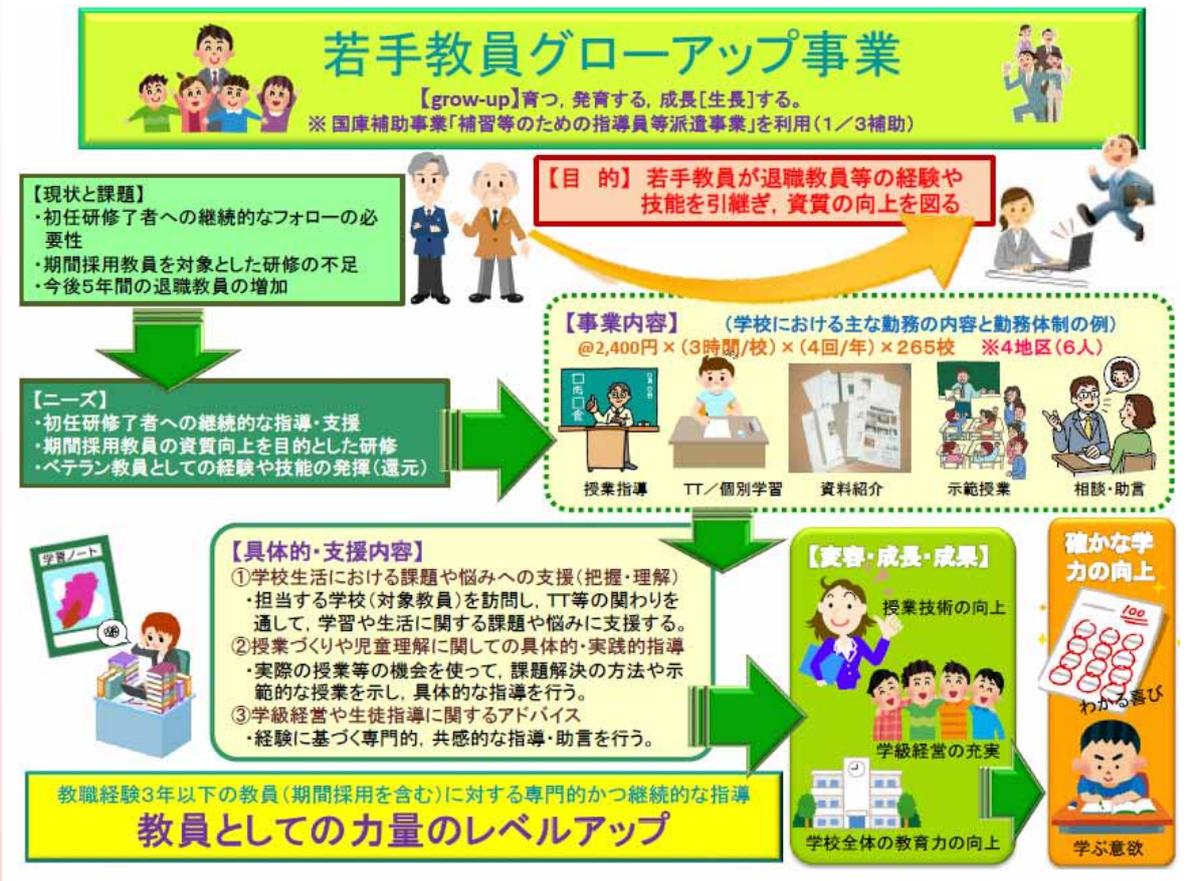
本県では子供たちが郷土に誇りをもち、自らの夢や希望を抱きつつ、たくましく、しなやかに育っていくように努めることが目標として掲げられています。このような中、子供たちの学力を向上させることは喫緊の課題であると捉え、そのための方策の一つとして若手教員の資質向上を促進させることが急務であると考えています。

若手教員の研修については、法定研修として初任者研修が行われていますが、2年目以降の若手教員の資質向上については、各自の研鑽に任されているのが現状です。また、期間採用教員を対象とした研修の機会も不足しています。さらに、今後は、退職する教員が増加し、教育現場からベテラン教員が急激に減少することも課題となっています。

本事業は、今年度から開始する新たな事業です。初任者研修を修了した教職経験3年以下の教員及び30歳以下で教職経験3年以下の期間採用教員を対象に、退職教員の経験及び知識・技能を生かし、専門的かつ継続的な指導を行うことによって、若手教員の教師力向上を図ることを目的としています。

2 事業の具体的な訪問指導内容

ベテラン教員としての経験及び知識・技能を有した退職教員を、指導員（アドバンスティーチャー〔教師力向上促進指導員〕：「ATJ」として、若手教員に対して、授業技術や学級経営能力の向上を目的とした学校訪問指導を行います。具体的には、授業観察、チームティーチング、示範授業、相談・助言等を通して、課題解決の方法やよりよい授業展開などについての学習指導に関することや児童生徒理解、学級経営等、生徒指導に関すること、学習や生活全般に関する課題や悩みの解決に向けた指導等を行います。



山梨県いじめの防止等のための基本的な方針を策定しました

義務教育課

1 本県のいじめの現状 平成24年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文科省）からいじめの認知件数は、小学校1,824件、中学校1,540件の計3,364件であり、前年度より2,910件、約7.5倍の増加となっています。県教育委員会としましては、いじめを認知することが、解消への第一歩であり、微細な時点での早期対応が、いじめ防止に効果があることから積極的な認知をお願いしました。その結果、先生方や児童生徒のいじめ問題に対する意識が高まり、いじめアンケート調査の実施率も、小・中学校とも100%となりました。また、小・中学校ともに、いじめの発見のきっかけは、アンケート調査が約70%で最も多く、いじめられた児童生徒の相談相手は学級担任が約77%で最も少なくなっていました。このことから、現場の先生方がいじめへの早期発見と解消に大きな力となっていることが伺えます。

2 いじめ防止対策推進法【平成25年9月28日施行】
いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とし、各市町村や学校においての「いじめ防止基本方針の策定」や、「いじめ防止等の対策のための組織の設置」さらには、「いじめの防止」「早期発見」「いじめに対する措置」についても規定しています。

3 山梨県いじめの防止等のための基本的な方針【平成26年3月25日成立】
これまでのいじめ対策の蓄積を生かしたいじめ防止等の取組に加え、いじめ問題への対策を社会総がかりで進め、学校・家庭・地域・関係機関の連携を図り、いじめの防止、早期発見、対処等をより実効的に進めるために、いじめへの組織的な対応、重大事態への対処等に関する具体的な内容や運用を明らかにし、いじめ防止等を総合的かつ効果的に推進するために策定したものです。

全体は、3部構成になっております。

第1 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

いじめの定義やいじめの防止等に関する基本的な考えを記載しております。

第2 いじめの防止等のための対策の内容に関する事項

いじめの防止等のために県や学校が実施すべき施策やいじめが原因による自殺等の重大事態が発生した場合への対処等を記載しております。

第3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

方針の見直しや市町村におけるいじめ防止等への指導・援助を記載しております。

○以下の組織の設置を明記し、いじめの防止や対処を組織に推進して参ります。

- ・ 山梨県いじめ問題対策連絡協議会（いじめ防止等に関係する機関や団体との連携）
- ・ 山梨県立学校いじめ問題対策委員会（県立学校におけるいじめ事案を調査、審議）
- ・ 山梨県いじめ問題調査会（知事の求めに応じて実施する再調査）

4 今後の対応

今後も、県教育委員会といたしましては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー事業及びいじめ・不登校ホットライン電話相談事業による教育相談体制の充実、豊かな心をはぐくむ「やまなし」道徳教育推進事業による未然防止等を実施して参ります。

各学校におかれましては、「いじめはどの学校でもどの子供にも起こりうる」という認識を持ち、市町村教育委員会の指導の下に、家庭や地域、関係機関と連携しながら、全ての教職員が一丸となって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていただきますようお願い致します。

県立高等学校の前期募集が変わります (甲府商業高校を含みます)

新しい学校づくり推進室

現 行

(各高校の募集人員)

| | |
|----------|------------------|
| 普通科 | 定員の 10 ~ 30% の範囲 |
| 専門教育学科 | 定員の 20 ~ 40% の範囲 |
| 職業に関する学科 | 定員の 30 ~ 50% の範囲 |
| 総合学科 | 定員の 20 ~ 40% の範囲 |

(検査方法)

- ・面接は全ての学科で実施します。
- ・各高校で、作文、特技、個性表現を実施します。

平成27年度入学者選抜から

(平成27年2月実施)

(各高校の募集人員)

| | |
|----------|------------|
| 普通科 | 定員の 40% 以内 |
| 専門教育学科 | 定員の 40% 以内 |
| 職業に関する学科 | 定員の 50% 以内 |
| 総合学科 | 定員の 50% 以内 |

(検査方法)

- ・面接は全ての学科で実施しますが、教科に関する質問は行いません。
- ・各高校で、作文に替わる特色適性検査、特技、個性表現を実施します。

(提出書類)

- ・新たに提出書類として「学習活動及び生活状況に関する所見」が必要となります。



Q

特色適性検査とは何ですか？

A

各高校・学科の特色を踏まえて、志願者に適性があるかどうかをみるもので、知識を活用する力、思考力、判断力及び表現力が求められます。普段から自分の考えをきちんと表現できるようにしておくことが大切です。なお、問題例は下のアドレスから見るができます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/documents/kaizenhoukokusyo.pdf>

Click!

Q

「学習活動及び生活状況に関する所見」とはどのようなものですか？

A

皆さんの中学校での学習活動や生活状況について、中学校長が、A（十分満足できる）、B（満足できる）、C（努力を要する）の3段階で評価するもので、前期募集志願者の提出書類の一つとなります。この「所見」の選抜資料比重は、各高校から公表されます。

毎日の授業にしっかり取り組むことはもちろん、学校行事に積極的に参加したり、学校のきまりを守ったりして充実した中学校生活を送ることが大切です。

青少年教育施設の利用について ～自然の家、自然の里 夏休み 宿泊★体験～

社会教育課

豊かな自然のなかで、様々な創作活動、勤労体験、生活文化の体験学習や集団宿泊を通して、社会性や協調性のある心豊かな青少年を育成するために是非御活用ください。

各種イベントを準備して、お待ちしております。

(最新のイベント情報は、各施設のホームページをご覧ください。)

ハケ岳少年自然の家

ハケ岳の森でオランウータンになろう (7/12 (土)～13 (日))

サマーキャンプINハケ岳 (7/27 (日)～29 (火))

夏の森キャンプ (8/9 (土)～10 (日))

テント生活や野外料理・・・一緒に自然を好きになりましょう！

北杜市高根町清里3545 tel 0551-48-2306

<http://www12.plala.or.jp/yatsugatake/>

Click!

ながとみ青少年自然の里

学校や家庭とは異なる生活環境の中で、自分で考え、判断し、行動する・・・

心身ともに、たくましい青少年を育てます。

和紙工房、陶芸工房、キャンプ場、体育館、宿泊棟などの施設。



南巨摩郡身延町平須306 tel 0556-42-3181

<http://www14.plala.or.jp/n-sato/>

Click!

ゆずりはら青少年自然の里

ゆずりはら地域の自然を生かした**ハイキング、ウォークラリー、ネイチャーゲーム、野鳥観察**などを堪能できます。

野外体験、工作体験も楽しめます。それぞれの団体にあったプログラムを！



上野原市桐原13880 tel 0554-67-2333

<http://yamanashikenshizenosato.web.fc2.com/>

Click!

平成26年度インターハイ ～いよいよ来月開幕！！～

全国高校総体推進室

いよいよ来月7月30日（水）からインターハイが開幕します。大会を広く県民にPRして、大会気運を盛り上げるため、高校生が県内各地で積極的にPR活動などを行っています。

1 信玄公祭りでのPR

平成26年4月5日（土）に信玄公祭りの会場において、県生徒実践委員会陸上競技分科会に所属する甲府南高校の生徒9人と、卓球分科会に所属する甲府第一高校の生徒10人が、甲府市実行委員会と共同で、PR活動を行いました。



2 100日前カウントダウンイベントの開催

平成26年4月20日（日）にイオンモール甲府昭和において、県生徒実践委員会主催の「100日前カウントダウンイベント」を開催しました。オープニングでは、甲府西高校の生徒による吹奏楽とダンス、市川高校など7校計110人による合唱を披露しました。また、県生徒実践委員会の生徒たちが、本県で開催される競技を工夫をこらして紹介したり、サッカーJ1ヴァンフォーレ甲府の青山選手と阿部選手のトークショーでは、お二人にインターハイの思い出などを語っていただきました。イベントの最後には、甲府工業高校、峡南高校、谷村工業高校の生徒が製作したカウントダウンボードの点灯式を行いました。会場は、約1,000人の観客で満席となりました。



3 県総体でのPR

平成26年5月7日（水）に山梨中銀スタジアムで開催された県総体総合開会式で、県生徒実践委員会の代表生徒8人を中心に横断幕・のぼり旗を掲げての入場行進、県生徒実践委員若林委員長のスピーチ等を行うとともに、バックスタンドには、各分科会の高校生がデザインした横断幕を掲出しました。また、テント村でポケットティッシュ等を配布しPRを行いました。



4 手作り記念品の作成

県生徒実践委員会おもてなし分科会（身延高校など10校）では、選手・監督約10,000人に贈る手作り記念品「ミサンガ」の作成が始まりました。日本一を目指す選手等のため、富士山をイメージした配色で、一つひとつ心を込めて編んでいます。



大会運営にあたり教職員、生徒の皆さんには、競技・運営役員、補助員として御協力をいただきます。大会の成功に向けて、何卒よろしくお願いたします。

問い合わせ 全国高校総体推進室 055-223-1640 / 大会公式HP <http://www.2014soutai.jp>

Click!

「科学の甲子園全国大会」に出場して ～高校生が科学の英知を競う～

県立甲府南高等学校

1 はじめに

3月21日から24日までの4日間、兵庫県西宮市で「第3回科学の甲子園全国大会」が開催され、甲府南高校が山梨県代表として出場しました。各都道府県の地方大会を勝ち抜いた47校が、筆記競技と実技競技でチーム成績を競いました。

2 「科学の甲子園」とは？

「科学の甲子園」は、平成23年度に始まり、昨年度で3回目の開催となる、科学好きな高校生のための競技会です。高校生が、科学の知識と技能を競い合い、活躍できる場をつくることで、科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層を伸ばすことを目指した大会です。

競技の内容は、高校生が8名（地方大会は6名）でチームを組み、理科・数学・情報の各分野で、筆記競技と実技競技を行い、総合成績を競います。

都道府県ごとに地方大会が開催され、選ばれた1校が、3月の全国大会に出場します。地方大会の参加チーム数は年々増加しています。

3 全国大会の様子

大会には筆記競技と3つの実技競技があります。どの競技も、学校ごとに4～5人のチームを組み、問題や課題を分担し、相談しながら取り組みます。個々の能力も大切ですが、高度なチームワークやコミュニケーション能力が求められます。

(1) 筆記競技

筆記競技は、理科・数学・情報の分野から出題され、知識を問うだけではなく、知識を活用した問題やそれぞれの分野を融合した問題など、多岐にわたっています。一見難しく思われる問題も、順を追って解いていくと、結論が見えてくるといった問題が多くあり、生徒達は解いていてとても楽しく感じたとようです。

(2) 実技競技

実技競技①は、薄層クロマトグラフィーを用いて、未知のアミノ



実技競技①(アミノ酸配列)

酸を同定し、その実験結果をもとにタンパク質のアミノ酸配列を決定する、生物分野の実験でした。この競技では、丁寧な実験操作と考察力が試されました。

実技競技②は、太陽電池の電流－電圧特性を調べ、太陽電池をモーターに繋いで、チーム旗をより速く上げる競技です。短い時間に多くのこ



実技競技②(太陽電池)

とを処理する必要があり、判断力とコミュニケーション能力が必要になります。どのチームも苦戦する中、本校のチーム旗が上がった時は、会場から歓声が上がりました。

実技競技③は、事前に競技内容が公開されました。与えられた材料で大会までに作品を試作・試行して大会に挑みます。今回のテーマは「Mgホバークラフト」でした。

ホバークラフトを作製し、10メートルのレーンを走らせて走行距離とタイムを競います。モーター以外は、全て手作りで、電池



実技競技③(Mgホバークラフト)

も手作りのマグネシウム空気電池を使います。非常に難度の高い課題でしたので、全く動かないチームや完走できないチームが多数ありました。その中で優勝チームの走りは圧巻でした。本校の生徒たちも、完走はできませんでしたが、よく健闘したと思います。

4 おわりに ～総合第12位と健闘～

会場は、常に高校生達の熱気で満ちており、難題にも果敢に挑戦する高校生達の姿に頼もしさを感じました。本校の総合成績は、12位でしたが、大会中も宿舎で夜遅くまで対策を練るなど、生徒達は大きな刺激を受け、科学への想いをさらに高めたようです。生徒達の今後の成長に期待したいと思います。

最後に、地方大会の開催や全国大会の運営に携わってくださった関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

博学連携の推進 ～学校教育に博物館をご利用ください～

県立博物館

「芸術に関する感性や郷土の歴史や文化への理解を育むため、県内文化施設の利用促進を図り、学校と連携した博学連携を推進します。」

これは、山梨県教育委員会が策定した「新やまなしの教育振興プラン」における博学連携に関する記述。

山梨県立博物館は平成17年10月に開館し、今年で9年目を迎えます。開館前から博学連携事業を推し進めるために、先生方と博物館活用研究会（現ティーチャーズクラブ）を立ち上げ、学校と博物館をつなぐための取り組みがなされてきました。

☆博学連携その1（来館校への対応）

県立博物館には教育主事が2名おり、この二人が博学連携事業を担当しています。

学校団体が博物館に来館する時には展示についてのガイドを行ないます。約30分かけて常設展の案内を、時には企画展の案内を児童生徒に行っています。この時使用されるワークシートは博物館活用研究会で作成されたものです。先生方が作り上げたワークシートは現在でも使われています。

ガイドには、来館校との綿密な下見打ち合わせが必要。時々、下見はしないという学校もありますが、学校が博物館に求めることをできるだけ実現させるために下見をお願いしています。この下見終了後、教育主事はまるで電車のダイヤのような時間割をつくります。児童、生徒とはたった1回の顔合わせです。「児童生徒が博物館に来てよかった。また来たい。」というガイドを行うよう努めています。



☆博学連携その2（出前授業）

博物館では、学校への出前授業を行っています。教育主事や学芸員が学校の要請に基づき学校へ出向きます。授業の内容は博物館ホームページに出っていますが、「昔の道具」「修学旅行事前学習（鎌倉）」「武田信玄」「県内巡り」などの依頼が多いです。この授業には講師料・出張料は一切かからないので是非ご利用ください。詳しくは4月に配布された「博物館活用事例集⑩」をご覧ください。



☆博学連携その3（貸出教材）

博物館には貸出教材（ミュージアムキット）があります。小学校ではこのキットを使ってファッションショーを行ったところもありました。児童・生徒の意欲関心を高めるにはとてもよい教材です。木簡キットはティーチャーズクラブの先生方の意見によって開発された教材です。



火縄銃



戦国の太刀



木簡キット



鎧



江戸時代キット

☆博学連携その4（インターン・職場体験）

博物館では積極的にインターン・職場体験を受け入れています。平成25年度は中学校8校、高等学校4校、大学2校を受け入れました。受け入れ期間については7月後半から8月中旬にかけてですが、他の期間も要相談です。体験日数は1日～3日、時には1週間という学校もあります。主な業務は、受付、案内、資料整理、イベント補助などです。



体験に来る生徒は、お客様を笑顔でお迎えするので来館されたお客様からの評判も上々です。

【お問い合わせ】

山梨県立博物館 企画交流課

TEL 055-262-1278

教職員の資質向上に資する研修会を目指して

～ライフステージに応じた研修体系の構築～

総合教育センター 教育指導部

グローバル化や情報化、少子高齢化など、急速に変化し、進展し続ける社会においては、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、学校教育においても、求められる人材像を踏まえた教育の展開が必要となっております。また、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用など、諸課題への対応も必要となっており、学校に期待される役割や教職員に求められる資質能力も様変わりをしています。

こうした中で、社会を生き抜くために確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成向上を構成要素とする「生きる力」を目の前の子どもたちに育むことは、ますます重要になっています。

それには、教職員が個人の力量を培うだけでは足りず、「学校組織マネジメント」の視点に立って組織としての力を高めていくことも大切になってきており、学校を組織として機能的に働かせるため、初任者も若手も中堅も、そしてベテランも、すべての教職員が責任を持ってそれぞれのステージで必要とされる教職員としてのキャリアを積まなくてはなりません。そのような認識のもと、総合教育センターでは、「教職員の資質向上に資する研修会を目指して」をキーワードとして、今まで挙げた教育課題を踏まえ、所員の意見も加えて教育現場のニーズや教職員のライフステージに合った研修会を提供できるよう、次の目標を立てて本年度の研修会を企画しました。

- (1) 教職員の資質能力の向上に資する質の高い研修会を企画・実施する。
- (2) 平素の教育活動に役立ち、指導に活用できる講座内容の構築に努める。

右図の平成26年度研修体系に示すように、様々な分野における研修会を企画するとともに、昨年度受講希望者の多かった、タブレット活用研修会を、基本操作から学ぶ「初めてのタブレット体験研修会」として2日間開設、タブレット端末の授業における効果的な活用方法を学ぶ「授業におけるタブレット活用研修会」を新設するなど、教育の情報化に対応した研修会の受講機会を増やしました。また、体験・参加型の研修手法を取り入れたり、研修会の統廃合や分割、内容の改編を行うなど、既存の研修会の見直しも行いました。さらに、学力向上やいじめ・不登校対策、特別支援教育の充実、防災対策・防災教育の充実など、喫緊の教育課題に沿った修正も行っております。

総合教育センターでは、本年度も学校現場のニーズに寄り添った教職員の専門性や資質能力の向上に役立つ、より質の高い研修の提供ができるよう努めてまいりたいと考えています。

本年度も多くの先生方の研修会への御参加をいただけますようよろしくお願いいたします。

平成26年度 研修体系

県内の国公立小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に勤務する教職員を対象として実施する平成26年度の研修会及びその体系

| | | |
|--|----------------|---|
| 総合教育センター 専門研修 (希望研修) | 基本研修 (必修研修) | ① 管理職研修 新任校長、新学年 |
| | | ② 主任等研修 新主任研修、新教務主任、新任生徒指導主事・主任、中・高・特(併)新学年主任・新学部主事、新研究主任、中学校新進教務指導主事、道徳教育推進教員、新特別支援学級担当、新特別支援教育コーディネーター、新特別教育リーダー、県立学校ネットワーク担当者及びPCリーダー、理科・模擬授業補助手帳講師、小学校経験3年目教員理科指導力向上、新期間活用、小学校授業力アップ実践、中学校授業力アップ実践 |
| | | ③ 初任者研修 |
| | | ④ 五年経験者研修 |
| | | ⑤ 十年経験者研修 |
| | | ⑥ 中堅教員研修 |
| | 専門研修 (希望研修) | ③ 教科等研修 注：次の枠内上段は教科等を示し、具体的な研修会名ではありません。 国際、社会、地域、公民、算数、数学、理科、生活、音楽、図画工作・美術、体育、保健体育、技術・家庭、英語、外国語活動から中学校英語への連携、理論と授業実践、特別活動、総合的な学習の時間、道徳、高校情報、産業教育、職業教育を行うフジカケア、保健室での心のケア |
| | | ④ 教育課題研修 国際理解教育、環境教育、福祉教育、学校図書館教育、新聞の教育利用、食育、校内研究の進め方、校内研究の活性化1・II、校内研究のまとめ方、地脚防災対策、期間採用教員、カリキュラム・マネジメント、キャリア教育、学校組織マネジメント、学校・家庭・地域連携教育、特別、5年制小中必修 |
| | | ⑤ 教育相談研修 教育相談の基礎を学ぶ、不登校問題に関する理論と実践、いじめを克服する学校をつくるためのワークショップ、いじめ・不登校・学級崩壊に向き合う勇気・力の学級づくり、ストレスマネジメント教育基礎、ストレスマネジメント教育実践、教育相談における実践力を養う |
| | | ⑥ 相談支援研修 関係機関との連携について学ぶ |
| ⑦ 特別支援教育研修 特別支援教育専門、心理検査法、特別支援教育の授業づくり1・II、特別支援教育課題、通常の学級における特別支援教育、医師的ケアスキルアップ | | |
| ⑧ 情報教育研修 情報セキュリティ・ネットトラブル対応、メディア・リテラシー、初めてのタブレット体験、授業におけるタブレット活用、電子黒板活用、ワコムプロジェクター活用、はじめてのホームページ作成、プレゼンテーション基礎(PowerPoint2010)、デジタル教材作成のためのPowerPoint2010活用、成績処理のためのExcel2010活用、校務処理のためのExcel2010活用、静止画像の加工と編集のためのデザインビジュアル、ビデオ教材作成のためのPremiere Elements活用、デジタル教材作成のためのフリーソフト活用、マクロ基礎(Excel2010)、ネットワーク基礎、サーバー構築(Windows)基礎、県立学校PCリーダーフォローアップ | | |
| ⑨ 外部共催研修 注：この研修は外部機関との共催研修です。 理科実験工作、身近な自然の観察法、体験で学ぶ山、環境ともくく、国際協力たすく、国際理解教育教材体験、博物館を活用した授業づくり、授業3活(すく)考古博物館利用、古代を体験！授業づくり、文学の魅力活用～知識の指導と評価 | | |

“あいさつ”で地域と大人、そして学校とをつなぐ PTA 活動

～『まず大人から 元気なあいさつ 明るい笑顔』を標語として～

→ 笛吹市立春日居小学校

本校は、桃やぶどう等の果樹栽培を中心とした地帯であり、笛吹川や兜山など自然にも恵まれた歴史ある地域にある全校児童383名の中規模校です。また、同町小中一校で、ほとんどの児童がそのまま同地域の中学校に進学するという地域です。

平成21年度のPTA会長の発案により、子供たちが気持ちよいあいさつができるようになるために、まず大人から積極的にあいさつしようと『大人のあいさつ運動』と称し、取組をスタートしました。具体的な活動として、PTA会員から標語とロゴマークを募集し、“まず大人から元気なあいさつ 明るい笑顔”という標語に決まり、ポスターやのぼりを作り、家庭や地域でのあいさつの輪を広げてきました。

その広がりには、児童会でも『あいさつ運動』の一環として、「あいさつの木」の取組、元気のよいあいさつする人「スマイルスター」を学級から選ぶ取組、朝の登校時に玄関での各学級が輪番であいさつをする取組と、地域と大人、そして、子供たちへとつながっている活動を推進しています。



あいさつをしながら交流する子供たち
児童会活動「1年生をむかえる会」



会員より募集し作成した
「あいさつ運動」ポスター

このページでは、県内の学校を紹介していきます。
各学校の様々な活動や取組を子どもたちの輝く姿とともにご覧ください。

山梨県立美術館開館35周年記念 山梨放送開局60周年記念

「生誕200年 ミレー展 -愛しきものたちへのまなざし-」を開催します

県立美術館

1 開催趣旨

2014年は、ジャン＝フランソワ・ミレー（1814-1875）の生誕200周年にあたる年です。本展はこれを記念し、国内外のミレー作品約80点によりミレーの画業を回顧します。ミレーは、それまで絵画の主題とはなりえなかった農民の労働の様子を見つめ、宗教性をもたえた荘厳な農民画の世界を生み出しました。その背景には、フランス初の風景画派の誕生の地となったバルビゾン村の自然豊かな制作環境がありました。また、幼い頃から育まれた自然に対する畏敬、身近なものへの慈愛がミレー作品の根幹を成しています。ノルマンディーの寒村で過ごした子供時代のまなざし、妻と9人の子どもに対する父親としてのまなざしを感じ取ることができます。

本展では、初期から晩年までの作品をご紹介するとともに、家族の肖像や生活の情景を描いた作品に焦点をあてることで、ミレーの作品世界の新たな広がりをお楽しみいただきます。



《子どもたちに食事を与える女(ついばみ)》
1860年 油彩・カンヴァス リール美術館蔵

© RMN-Grand Palais / Jacques Quec d'Henripret / distributed by AMF

2 関連事業

○記念講演会①

- ・日時：7月19日（土） 14:00～16:00 ・会場：総合実習室
- ・講師：井出洋一郎氏（府中市美術館館長）、ルイズ・ル・ギャル氏（トマ＝アンリ美術館館長）
- ・内容：ミレーを取り巻く環境や風土との関わりについての講演とトークセッションです。

○記念講演会②

- ・日時：8月2日（土） 14:00～15:30 ・会場：総合実習室
- ・講師：馬淵明子氏（国立西洋美術館館長）
- ・内容：社会的な背景を踏まえた絵画に於ける農民像や家族像の受容についての講演です。

○キッズ・プログラム「羊と生きる -羊毛を身近に体験する」

- ・日時：7月30日（水） ①10:00～12:00 対象：小学生（定員30名）
②13:30～15:30 対象：中学生（定員30名）
- ・講師：(株) アナンダ 西岡優子氏
- ・内容：ミレーの作品に描かれる羊や羊毛の文化について、楽しみながら理解を深めるレクチャーと実技です。
- ・会場：ワークショップ室
- ・申込期間：7月8日（火）～29日（火）（詳細はHPをご確認ください。）

山梨県立美術館開館35周年記念 山梨放送開局60周年記念
「生誕200年 ミレー展 -愛しきものたちへのまなざし-」

日時：平成26年7月19日（土）～平成26年8月31日（日）

休館日：7月22日（火）、28日（月）、8月4日（月）、25日（月）

観覧料：一般1000（840）円 大学生500（420）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL055-228-3322

関連 HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

企画展「村岡花子展 ことばの虹を架ける ～山梨からアンの世界へ～」

～6月29日（日）まで開催中

県立文学館

1 企画展の内容

世代をこえ多くの人々に愛され続けている「赤毛のアン」。この作品を日本で初めて翻訳したのが村岡花子です。本展では明治・大正・昭和の激動の時代を生きた花子の波瀾に満ちた生涯と、夢にあふれる童話や翻訳小説を世に送り出した文学の原点をご覧ください。



山梨英和女学校で教師をしていた頃
提供 赤毛のアン記念館・村岡花子文庫

村岡花子（1893～1968）は、甲府市に生まれ、5歳のとき家族で東京に移り住みます。10歳の年、東洋英和女学校に編入学し、英米の文学に原書で親しみ、英語の文章や会話を身につけます。

1914（大正3）年、甲府の山梨英和女学校へ英語教師として赴任し、5年間教鞭をとる間、作家としての足がかりを積み上げます。1919年再び上京し、出版社勤務を経て印刷会社を営む村岡徹三と結婚。その後も関東大震災による夫の会社の倒産や、長男の急逝という苦難・悲しみに見舞われながら、創作・翻訳に取り組みます。

1939（昭和14）年、カナダ人婦人宣教師の友人からモンゴメリ原作『ANNE OF GREEN GABLES』を贈られます。これを戦中戦後にかけてひそかに翻訳し、1952（昭和27）年5月『赤毛のアン』として刊行、その後も10冊のアン・シリーズを翻訳しました。また戦後は、教育や婦人団体の活動にも関わり、社会に向けて積極的に発言していきました。

2 みどころ

企画展では、「赤毛のアン」の翻訳原稿、花子と夫・徹三が結婚前に交わした往復書簡、東洋英和女学校時代の年上の同級生・柳原燐子（歌人・白蓮）との往復書簡、花子が短歌を書いたノート、着物や硯、万年筆、時計といった花子の愛用した品などを展示しています。また、展示室には「赤毛のアン」に描かれている「アンの部屋」が再現されています。

閲覧室（入場無料）では、花子や「赤毛のアン」の関連図書、花子が出演したテレビ番組のインタビュー映像、ラジオ番組などを視聴することができます。

*掲載写真の転載及び無断使用は禁止します。



村岡花子「赤毛のアン」翻訳原稿
（第3章冒頭）寄託資料

企画展「村岡花子展 ことばの虹を架ける ～山梨からアンの世界へ～」

日 時：平成26年4月12日（土）～6月29日（日）6月は月曜休館

開館時間：展示室 午前9時～午後5時（入室は午後4時30分まで）

閲覧室 午前9時～午後7時（土・日・祝日は午後6時まで）

場 所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

企画展観覧料：一般600（480）円 大学生400（320）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

特設展「本のおしゃれ」を開催します

県立文学館

1 華麗な装幀

本は表紙だけでなく見返し・口絵・挿絵など様々な箇所に装飾が施されていて、見るものを楽しませてくれます。昨今、電子書籍で読書を楽しむ人が増える一方で、明治から昭和にかけて発行された美しい装幀の本や斬新なデザインの表紙の雑誌が改めて注目を浴びています。特に、画家の橋口五葉、浅井忠、小村雪岱、鍋木清方らがカバーや挿絵などを描いた夏目漱石や泉鏡花の著書は、その豪華さと美しさから「漱石本」「鏡花本」と呼ばれ、珍重されています。

漱石の「吾輩は猫である」は1905（明治38）年から雑誌に連載された後、上・中・下編の単行本として刊行されました。橋口五葉が担当した3冊の装幀はすべて異なり、随所に意匠が凝らされています。五葉はこの他にも『虞美人草』や『それから』などの装幀を手がけ、華麗な「漱石本」を世に送り出しました。



夏目漱石『吾輩は猫である』下編
装幀 橋口五葉

2 みどころ

五葉が装幀を手がけ、中村不折と浅井忠が挿絵を描いた夏目漱石『吾輩は猫である』上・中・下編（1905～7年）、小村雪岱装幀の泉鏡花『遊里集』（1915年）、恩師・菅虎雄が揮毫した芥川龍之介『羅生門』（1917年）の題字原稿、友人・小穴隆一による芥川の『支那遊記』（1925年）表紙見本刷、高橋忠弥による深沢七郎の『樞山節考』（1957年）や谷内六郎による『笛吹川』（1958年）の表紙原画、司修による武田泰淳の『富士』（1972年 特装愛蔵本）挿絵エッチング、白根美代子による井伏鱒二の童話『トートーという犬』（1988年）挿絵原画、林真理子がみずから描いた自著『マリコ・ストリート』（1988年）挿絵原画など個性豊かに装飾された名著とその装幀や挿絵の原画、関連の書簡等約80点の資料を展示します。

本の中身を引き立たせ、ある時は内容以上に強烈な印象を与える表紙や挿絵。丹精込めた仕事の数々を是非ご覧ください。



芥川龍之介『支那遊記』表紙見本刷 装幀 小穴隆一

*掲載写真の転載及び無断使用は禁止します。

特設展「本のおしゃれ」

日時：平成26年7月19日（土）～8月24日（日）

場所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

休館日：7月22日（火）、28日（月）、8月4日（月）

観覧料：一般320（250）円 大学生210（170）円 ※（ ）内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

学術文化財課

中村キース・ヘリング美術館（北杜市小淵沢町）

中村キース・ヘリング美術館は2007年に八ヶ岳の裾の尾に建設されました。この土地は古代縄文文化が隆盛を極めた、活火山のエネルギー漲る場所です。コレクションは山梨県出身の中村和男が1987年から蒐集を始めたキース・ヘリングの作品約170点からなり、混沌とした、しかし猛烈なエネルギーを放出した80年代のニューヨークで生まれたアートが凝縮されています。ヘリングの発したメッセージを体感できるよう、建築家北川原温の設計により「光と影」を表現した空間は、2008年に日本建築大賞を受賞。大都市の喧噪の中から生まれたヘリングのアートは、今この地の持つ自然の力と歴史を吸収し甦ります。

現在2015年のリニューアルオープンに先駆け、コレクションのハイライトを展覧。ヘリングの活動の全貌を追いながら、彼が確立した世界観を再考します。

住所：北杜市小淵沢町10249-7

電話番号：0551-36-8712

休館日：会期中無休（冬季休館有）

開館時間：10:00～17:00

入館料：一般1,000円 小中高生600円

大学生・シニア800円

幼児無料 団体割引有

URL：www.nakamura-haring.com

Click!



All Keith Haring Works © Keith Haring Foundation
Photo © Rakutaro Ogiwara

山梨の文化財

学術文化財課

国指定史跡 大丸山古墳（甲府市下向山町）

平成25年10月31日指定

大丸山古墳は、甲府盆地南東部縁に連なる曽根丘陵上の一角、標高340メートルの東山の尾根上に所在します。

県立考古博物館の南側、都市公園「甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園」の中にあり、同じ公園内にある国指定史跡銚子塚古墳や丸山塚古墳とともに古くから全国的に知られている遺跡です。

今から約1600年前の4世紀中頃に造られた全長99～120メートルの東日本を代表する古墳時代前期の大型の前方後円墳で、甲斐銚子塚古墳に先行する時期に築造されたと想定されています。

この古墳には花崗岩製の石棺を納めた竪穴式石室（遺体を納める石の部屋）があり、昭和初期には石室内部から数多くの副葬品（石枕、青銅鏡、鉄製品、短甲など）が発見されましたが、中でも花崗岩製の石棺や鉄製柄付手斧は渡来系の工人によってもたらされた技術や製品と考えられ、豊富な鉄製農具の副葬とともに、甲斐銚子塚古墳とは異なった埋葬内容をもつ点が注目されています。

出土品は現在、東京国立博物館に収蔵され、県立考古博物館では石棺や出土品の復元展示をしています。

山梨県を含む東日本の古墳時代前期の社会・政治の動向や埋葬方法などを知るために欠くことのできない古墳であり、全国的な視野から見ても非常に価値が高い古墳であることから、国史跡に指定され、今後大切に保管・活用していくことになりました。



平成27年度山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について

(甲陵高等学校は別途北杜市教育委員会が定めます)

新しい学校づくり推進室

山梨県教育委員会は、去る5月14日に平成27年度入学者選抜に関する基本事項を公表しました。

全日制課程の入学者選抜制度の主な特徴は、次のとおりです。

- 1 全県一学区です。
- 2 「前期募集」と「後期募集」の2度の受検機会があります。
- 3 「前期募集」では、自分の興味・関心、特性を生かした受検ができます。
- 4 「後期募集」では、志願先高校に普通科、専門教育学科、総合学科の2学科以上が設置されている場合、志願する学科のほかに第2希望まで志望順位を付けることができます。

平成27年度入学者選抜の概要は次のとおりです。

1. 全日制前期募集

①検査方法

面接のほか、各高校が定める特色適性検査、特技、個性表現のいずれかを併せて実施します。

②出願期間

平成27年1月21日(水)から1月23日(金)

③検査期日

平成27年2月3日(火)、4日(水)

④入学許可予定者の内定日

平成27年2月10日(火)

2. 全日制後期募集

①学力検査

国語、社会、数学、理科及び英語(リスニング含む。)を実施します。

②出願期間

平成27年2月20日(金)から2月24日(火)

③検査期日

平成27年3月5日(木)

④入学許可予定者の発表

平成27年3月12日(木)

3. 全日制再募集

①検査方法

面接のほか、作文又は新たに行う学力検査を実施します。

②出願期間

平成27年3月12日(木)から16日(月)

③検査期日

平成27年3月17日(火)

④入学許可予定者の発表

平成27年3月19日(木)

4. 定時制入学者選抜

①検査方法

学力検査及び面接を実施します。

②出願期間

平成27年2月20日(金)から2月24日(火)

③検査期日

平成27年3月5日(木)、6日(金)

④入学許可予定者の発表

平成27年3月12日(木)

5. 定時制再募集

①検査方法

再募集に当たっての学力検査及び面接を実施します。

②出願期間

平成27年3月17日(火)から3月23日(月)

③検査期日

平成27年3月24日(火)

④入学許可予定者の発表

平成27年3月26日(木)

6. その他

①詳細については、別に定める「平成27年度山梨県公立高等学校入学者選抜実施要項」によります。(10月下旬公表予定)

②平成27年度入試の募集定員は、11月上旬に決定する予定です。

第12回「わたしたちの研究室」作品を募集します

県立考古博物館

目的

県立考古博物館では、「わたしたちの研究室」と題し、小中学生の皆さんの社会科歴史的分野に関係する研究成果を募集しています。これは、身近な郷土の歴史を学び、その研究成果を表彰、広く発表する機会を設けることで、児童・生徒の考古学に関する興味関心を深める一助とし、またテーマに沿って調べ、考え、まとめるという力をつけることにより、“調べ学習”からより主体的な研究活動にもつながる機会づくりをするという目的のもとに設けています。



応募作品（一部）

概要

応募作品には、個人部門と団体部門を設け、研究内容としては児童・生徒の夏休みの自由研究からクラス、学年で取り組んだ研究成果まで、幅広く募集しています。



応募作品（お土産の考案）

考古学というと少し難しく受けとられがちですが、さまざまな方面からアプローチができるため、多角的な研究も可能です。これまでも、親族の土地から出土した土器片から、その地域の歴史を調べてまとめた研究や、一年をかけて児童だけでなく保護者や地域住民の力も借りて校庭に竪穴住居を復元した研究などがありました。さらに縄文土器の文様を読み解きながら当時のダンスを復元し実践した研究や、土器や土偶を実際に作って調理実験などを行ってそこから当時の食生活を考えた研究のほか、甲府城の研究から地域活性化につながるお土産のお菓子を考案した作品など、多岐にわたる成果が応募されています。

昨年度は参加者総数423人、研究成果・作品総数274点もの力が集まりました。これらのご応募いただいた研究成果は、厳正なる選考のうえ表彰し、全ての研究成果を県立考古博物館にて展示します。

今年度は第12回を迎えることとなり、9月2日（火）から研究成果の募集を始める予定です。詳細は順次お知らせいたしますが、この事業をとおして改めて地域の歴史に親しむ機会を作ってみてはいかがでしょうか。



研究成果展示会

第12回「わたしたちの研究室」お問い合わせ

募集期間：平成26年9月2日（火）～平成26年11月30日（日）

提出・問い合わせ先：県立考古博物館 学芸課

TEL 055-266-3881

FAX 055-266-3882

HP：<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

新教育委員長に 杉原 廣氏が就任しました

県教育委員会では、高野孫左エ門委員長の任期満了に伴い、後任の第七十七代委員長に杉原廣氏を選任し、三月二十四日に就任しました。



新委員長
杉原 廣

厚生労働省の数値で見ると、生産人口の割合は2060年には約50%になると推計されています。今、目の前の子ども達は、経済が縮小し、世界規模で競争が激化する中で、海外からエネルギーと食料を購入するだけの仕事をしていかねばなりません。

そういう状況の中で、子ども達は生き抜き、自己実現をはかり、よりよい社会を形成していくことが求められます。そのための力をつけていく必要があります。

こうしたことを踏まえ「新やまなしの教育振興プラン」を策定しました。プランでは「夢と希望に向かって自ら学び、考え、行動するたくましい力」と「他者を思いやり、社会の絆を深める『しなやかな心』を育む」ことを基本目標としています。

先生方には、何のために学ぶのか。指導する側はもちろん、学ぶ側が自分の目的として意識できるような取組をお願いしたいと思います。教育委員会も制度の目的をしっかりと踏まえて取り組んでいきたいと思っています。

新教育委員に 飯室 元邦氏が就任しました

県教育委員会では、高野孫左エ門委員の任期満了に伴い、後任の教育委員として飯室元邦氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成二十六年三月二十四日から平成三十年三月二十三日までです。



新委員
飯室 元邦

教育委員を拝命し、これまでに無い責任の重さを感じさせられました。子育てが一段落し、保護者としての立場を離れ、社会的にも歳相応の役職となり、学校教育への関心も薄れがちになったことへの反省の念でもありました。

私ども、ICT（情報通信）企業は、最先端の通信技術を駆使して、ソフトウェア・ソリューションの開発を行うことから、高度な技術者の育成は最も重要なものとなります。これまで、社員教育を最重点課題として取り組んで参りましたが、社内研修の土台となるものは、学校教育での人間性の涵養であることを痛感せざるを得ません。

ことに、世界に通用する人材の育成は、これからの日本にとって欠くことの出来ない関心事であり、地域の伝統と文化に根ざしたアイデンティティを持ったグローバルな人間の育成こそが教育に課せられた責務であると思っております。

微力ながら、本県の学校教育の進展のため、力を尽くして参りたいと考えております。